

## 鉏路市PTA連合会との懇談会（学校のあり方について）

### ■開催日時及び場所

2022年（令和4年）4月21日（木） 午後6時00分～午後7時00分  
鉏路市役所防災庁舎5階 災害対策本部室

### ■主な議題

- (1) 鉏路市立小中学校のあり方検討委員会中間報告書について
- (2) 意見交換

### ■発言要旨

市P連役員：学力の向上について、PTAでも話をしているが、鉏路市内の少人数の小学校でも学力テストの結果が上位の学校もあるので、子どもたちの教育にとって少ない人数でも良いのではないかと感じる。また、クラス替えについて、小規模校でも学校側が工夫して担任の先生を毎年変えるという取り組みをしているところもある。私はPTA連合会として参加しているが、武佐小学校のコミスクのコーディネーターや、地域振興も3年目をしているが、小学校の現状としては、町内会やコミスクなどに学校行事を色々と助けていただいているが、例えば、ラジオ体操1つとっても町内会の方に学校に来ていただいている。町内会の方のお話では、学校があると近くに新しい家が建って、若い世代の人たちが来てくれるといったお話や、学校が廃校になってしまうとその学校の周りの地域に若い世代の人たちが来なくなり、段々とその地域の周りが廃れてしまうということを知る。これだけ町内会の方も協力して活動している中で、急に何年後には無くなるとなると今までお願いして一緒に活動している中、やはり納得できない部分があるのではないかと気がするので、6月の議会を通す前に、本来であれば地域の方へ対象校の説明をすることが必要ではないかと思う。

教育長：確かに武佐小学校は学力的に伸びている状況にあり、国もようやく少人数に舵を切り、小学校における35人学級をようやく進めたところで、その流れが中学校にも波及しているが、すでに欧米では20人学級等が主流で、35人学級で本当に良いのかという議論もある。少人数指導の有効性は我々も十分に理解しているが、少人数指導と少人数の学級というのは、ニュアンスが少し違い、少人数の学級とは考え方が似て異なるものなので、その点についてはご理解をいただきたい。また、地域に対するご説明について、今回の非常に大きなテーマに対して何も無いところで進めるというのは、行政として極めて不誠実だと思うので、議論を進めていく上にあくまでたたき台を6月議会でお示しをして、地域の皆さまにご説明をしていく中で、学校再編をすると避難所はどうなるのかといったことなども含めて、たたき台を整備していき、まずは素案を作っていくという流れになる。また、その素案についてもパブリックコメントにかけて、何回か議会を経て成案として作り上げていきたいと考えており、6月の段階で決定し、今後こうしますという様には考えてはいない。たたき台が地域に出ていった中で、場合によっては、我々も認識していない課題が明らかになるかもしれないので、色々なご意見を十分にお聞かせいただきたいと考えている。ご指摘のとおり、学校は街づくりに非常に大きな影響を与えるが、我々の検討としては、今の時点で子

どもたちにとって、どの様な最適な教育環境を与えられるかというところであり、地域へのご説明は丁寧に行っていくよう考えている。

市P連役員：義務教育学校になることで先生に対するメリットはあるのか。

事務局：義務教育学校になると小学校と中学校の教諭の配置基準がそのまま一緒になるが、児童生徒数によっては教諭の数が増えるというメリットが考えられる。また、小学校しか知らない先生、中学校しか知らない先生がお互いの授業を見て、それぞれの良いところを授業に取り入れることで、授業改善に繋がるのではないかとこのところも言われている。

市P連役員：資料2のB小学校、C小学校とそれぞれの小学校があってA中学校に行くという現状のかたちの中で、小中一貫教育はどの様に行われているのか。

事務局：小学校が2つのところについても小学校・中学校の先生方で研修等により小中連携を深める取り組みを行っている。

市P連役員：現段階でもある程度小学校の先生と中学校の先生で小中連携を行っているということか。

教育長：今、小学校と中学校のパイプを太くすることで小中連携を重点的に進めていきたいと考えている。逆に言うところまで小学校と中学校の連携があまり進んでいなかったという現実があり、ご存じのとおり小学校はクラス担任制で中学校は教科担任制であり、小学校・中学校の間に壁があって、中々相互に行き来ができないが、中学校の先生が小学校の高学年に英語を教えに行くなどの取り組みを充実させようとしている。施設一体型の義務教育学校を設置する考えもあるが、まずは、小学校と中学校のままでも小中一貫教育・小中連携を進めて、小学校と中学校の垣根を取り、子どもたちのために指導体制をより良いものにしていきたいと考えている。また、その小中一貫教育を更に進めたところに施設一体型の義務教育学校があるというのをご理解いただきたい。そういった部分も含めて小中一貫教育をトータルに目指していくが、中々時間がかかることでもある。

市P連役員：今まで小中連携が進んでいなかったということを初めて知った。申し送りではないが、子どもの特性があって、小学校から中学校へあがるときに環境も変わるので、中1ギャップというのは子どもの成長を見ていると目に見えてある。また、時期的なものもあると思うし、小中連携を進める上で本当に中1ギャップがなくなるというのであれば、凄く良いと思う。

市P連役員：長い目で考えると将来的に中学校の学校数と小学校の学校数が統一されていくことになるのか。

教育長：遠い将来そういったこともあるかもしれないが、市として少子化を止めようと努力している中、30年、40年も長い期間、地域ごとの人口がどの様になっていくかという推計はできないので、まずは10年の計画を作り、5年程度経ったときに一旦、計画を見直して、計画当初のテンポや内容で進めて良いものなのか検証することが必要になるので、目指すところはそこかもしれないが、そこまでいけるかは色々な課題が出てくると思うし、長い期間が必要となる。

市P連役員：私は城山小学校だが、みんなが当たり前の様に幣舞中学校に行っていたので、同じ小学校から色々な中学校に行っているということを中学校の構成を拝見して初めて知った。城山小学校と鉏路小学校では鉏路小学校の方が人数が多いので、人数が少ない城山小学校の子は中学校で気持ち的に萎縮してしまうと子どもから聞いているので、そこを考えると湖畔小学校も中学校の入り口のところで居場所が無くなってしまっている子がいるのではないかと思う。

市P連役員：武佐小学校から中学校に行くと大体1クラスに3人ぐらいになってしまうが、部活をしている子どもいるので、そういった意味では知っている子どもがいるという場合もある。

市P連役員：中学校は住所で校区が決められているのか。

教育長：校区については今後変えていきたい。

市P連役員：居場所の無い子どもが増える気がするので、校区の調整が出来るのであれば、早めにしていただきたい。

教育長：同じ小学校の児童生徒がみんな同じ中学校に行くという校区調整は必要なので、調整を進めていきたい。

市P連役員：正直、そういったことがきっかけで不登校になってしまうという話も聞くので、是非お願いしたい。大人にとってはそんなことと思うかもしれないが、子どもにとっては学校が全てなので、居場所作りや環境を整えることを考えてもらいたい。

市P連会長：あり方検討委員会に出させていただいて、小中一貫教育の推進についての具体的な方策や効果、またメリット・デメリットがある中、そのデメリットを少しでも緩和させていくということも中間報告に含まれており、統廃合ありきといった進め方ではないということを理解させていただいた。その上で、全て義務教育学校を設置するわけではなく、小中分かれている学校が併設することで、子どもたちの学習面に対するメリットにばらつきがでないかということや、校区再編について、校区によっては、通下校の通学距離が遠くなることへの安全に対する配慮などについての話しなどが、今後保護者の方から挙がってくると思う。こういった取り組みに対して、みんなが期待感を持って良い方向に向かっていける様にしていければ良いなと思っているので、何をもって、やはり各関係、保護者一人一

人に詳細についてわかっていただけるよう丁寧に説明を行って欲しい。

教育長：この年から全ての学校を義務教育学校にするということではできないので、義務教育学校を目指しながら、それと同等の教育環境をすべての子どもたちに確保していかなければいけないということも我々の重要な仕事だと考えている。そのためには小中連携を進めて小中一貫教育を充実させていくことが大前提となり、今年から小・中ジョイントプロジェクトという新事業に着手しているが、中学校区をベースとした協議会を小学校も入れた中で行っていき、それに加えて、中学校の先生は小学校に行き、小学校の先生も中学校を見て、どの様な授業をしているか、どうすれば小中連携を図れるかを相互乗り入れのジョイント事業を行って、小中一貫の方向性を具体化するための一歩として進めていく。今後、一人でも多くの皆さまにご理解をいただけるよう、丁寧にご説明をしていきたいと思う。

市P連役員：6月の議会で学校名などが公表になると思うが、該当校にはいつ連絡がいくのか。6月の議会の後、新聞報道で知ることになると該当校とその保護者は大騒ぎになると思うが、事前に連絡はしないのか。

教育長：6月の議会前にあり方検討委員会で会議を行って、具体的にどの学校をどうしていくべきかという2回目の中間報告をいただくことになっており、その時点でどうするかではあるが、やはり情報というのは出すタイミングが非常に難しく、おっしゃるように保護者の方たちが大騒ぎになるということもあると思うが、一方で、釧路市議会は市民の代表となるので、情報の出し方については非常に悩むところである。いずれにしても情報を出した後、その内容を丁寧に説明してご理解いただく努力をしていこうと考えているので、情報を出した後、来年からこうなりますというようなやり方ではなく、そこに対して色々なご意見を頂戴する時間も確保していきたい。物事が変わるときに不安はつきものだと思うので、その点も十分に踏まえて、情報の出し方を考えていきたい。ただ、現段階ではどこに情報を出すかとなると議会ではないかと考えている。

市P連会長：教育長のお話しであったが、あくまでもこれからの議論のたたき台というかたちで提示されるものだと思うので、まずは、小中一貫教育に向かう背景や、方策や効果、時間軸というところを懇切丁寧にと言うと大変恐縮ではあるが、地域の皆さまにご理解をいただくことがまずは最初であって、その上で具体的な学校名やたたき台の内容を見たときに良い意見が出るのかなと考えている。情報を出すタイミングはもちろん大事だが、やはり何を目的に、何を狙って、何をしようとしているのかということ保護者の方、地域の方も含めて等しく共有できる様に努力することがまずは何よりも必要だと思うし、そこに対して市P連としても努力をしたいと思う。

#### ■担当課係

学校教育部教育支援課教育政策担当